

| | | |
|-------------------------------|---|-----------------------------|
| 開講科目名 / Course | 国際看護学概論（2年次開講） | |
| ターム・学期 / Term・Semester | 2026年度 / Academic Year 1 学期 / First | |
| 開講区分 / semester offered | 1 学期 / First | |
| 単位数 / Credits | 1.0 | |
| 学年 / Year | 2 | |
| 主担当教員 / Main Instructor | 桑野 紀子 | |
| 担当教員名 / Instructor | 桑野 紀子、篠原 彩 | |
| 必修・選択 / compulsory subject | 必修 | |
| 講義形態 / Class Type | 講義 | |
| 授業回数 | 8 | |
| 科目の目的と概要 | 本講義では、世界の人々を看護の対象としてとらえ、国際保健および国際看護の主要概念、世界の保健医療に関する現状と課題、およびそれらを取り巻く社会的・文化的背景について学修する。また、訪日外国人や日本国内の在留外国人への健康支援に関して、対象者の文化社会的多様性を考慮した看護について学ぶ。 | |
| 到達目標 | 1. 国際看護（Global Nursing）および国際保健の主要概念について、適切な用語を用いて説明できる。 2. 世界の主要な健康課題について、背景要因と看護の役割を関連づけて整理することができる。 3. 多様な文化社会的背景をもつ対象者の看護についての視点を具体的に述べることができる。 | |
| DPとの対応 | 1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力 | |
| 授業計画 | 01. 国際保健（Global Health）および国際看護（Global Nursing）の主要概念 02. 世界の健康問題の概観：感染性疾患、非感染性疾患、傷害と暴力、貧困 03. 国際保健における国際協力のしくみ：日本の国際協力、国際組織、政府組織、非政府組織 04. 国際協力と看護の役割（国際協力の現場における看護の実際） 05. 海外における看護実践の実際 06. 多文化社会における看護の視点（文化的配慮とコミュニケーション） 07. 日本に在留する外国人の健康課題：文化・社会・言語的背景が多様な対象者への看護 08. 多文化共生社会への取り組み：グループワークと発表 | |
| その他の授業の工夫 | 講義で得た知識をワークショップ/グループワークで事例に適用し、ディスカッションする機会がある。海外での看護実践者の講義を含む。 | |
| 時間外学修 | ・事前学修：次回の学習内容について、テキストの該当範囲や配布資料を用いて予習する（7h）。 ・事後学修：小テストやレポートを用いて講義で扱った内容について復習するとともに、国際機関のホームページ等から周辺情報を収集して理解を深める（15h）。 | |
| 評価方法と評価割合 | 平常点（発言等の積極性、グループワーク等における貢献度）：10% 数回の講義テーマに関する課題レポートまたは小テストの合計：40% 定期試験：50% | |
| テキスト | 看護の統合と実践 国際看護学（メジカルフレンド社） | |
| 参考書 | 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3]（医学書院） 看護テキスト NICE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために（南江堂） | |
| 履修する上で必要な要件 | | |
| その他 | | |
| 教員の実務経験 | 有・無 | 有 |
| | 内容 | 桑野紀子：看護師、助産師、保健師 篠原彩：看護師 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | 有・無 | 有 |
| | 内容 | 看護師、助産師、保健師、海外での看護実践 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 国内外での看護実践等をふまえ、グローバル社会における看護の実際について学生に指導する。 | |